

今回は今年3月に発行予定の平成29年度網走水試事業報告書の中から、「ウニ類増殖試験」の概要についてご紹介します。

《はじめに》「ウニ類増殖試験」はオホーツク総合振興局管内でのエゾバフンウニの漁獲実績から資源状況を把握し、今後のウニ資源維持増大への基礎資料とすることを目的に1992年から継続して行われています。

《方法》エゾバフンウニの年別・地区別の漁獲量は北海道水産現勢を用いて集計しました。分布調査は網走市ニツ岩地先において行い、陸側（水深1.5m）から東方向の沖側へ300m（水深4.5m）の調査測線を設定し、SCUBA潜水により25m間隔で1m²の方形枠内のエゾバフンウニを全て採集しました（計13枠）。陸上で殻径の測定を行い、生殖板の輪紋数から年齢を推定しました*。

《漁獲量の推移》オホーツク総合振興局管内におけるエゾバフンウニ漁獲量は、1985年以降、1990年の121トン进行ピークに減少し、2004年以降は20トン前後を推移しており、2017年は13トン（暫定値）となりこれまでの最低を更新しました（図1）。

《分布調査の結果》2003年以降、調査測線上で採集されたエゾバフンウニの平均密度の推移を図2に示しました。2008年までは32.0～71.5個体/m²の範囲で推移しましたが、2009年に95.1個体/m²に増加しました。その後減少を続け2014年には41.6個体/m²となり、その後やや増加し、2017年には55.5個体/m²となり、前年とほぼ同じでした。殻径の出現頻度分布の推移をまとめたところ、2003～2006年、2007～2010年、2011～2013年、2015～2017年にかけて、10mm前後の小型個体の殻径のピークが、年々大きい方へ遷移する傾向が見られました。このことから、ほぼ4年ごとの周期で後続群が現れ、成長していくことが示唆されました。2017年は殻径32～34mmにピークが見られました。また、3～4歳の占める割合が高く、全体の63.8%を占めました（図3）。年齢と殻径の関係を見ると、平均殻径が漁獲サイズである40mmを超えるのは5歳以降であることが分かりました（図4）。

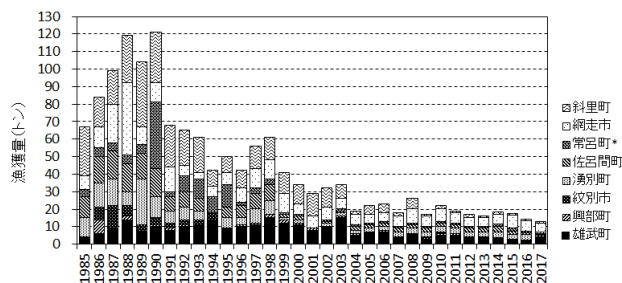


図1 エゾバフンウニ漁獲量の推移

*常呂町は2006年に北見市と合併

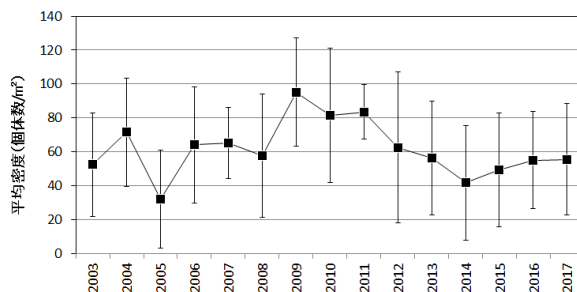


図2 エゾバフンウニ密度の推移

平均値±標準偏差, n=13

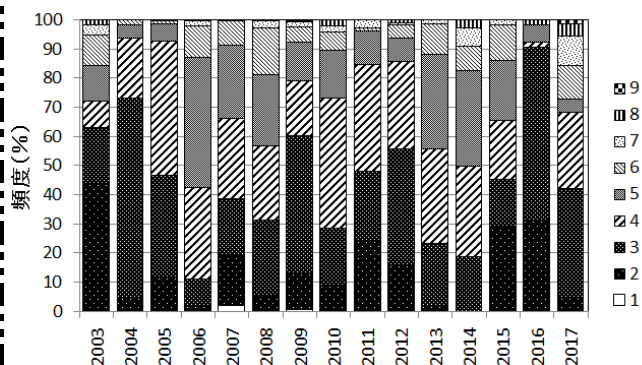


図3 エゾバフンウニの年齢組成の推移

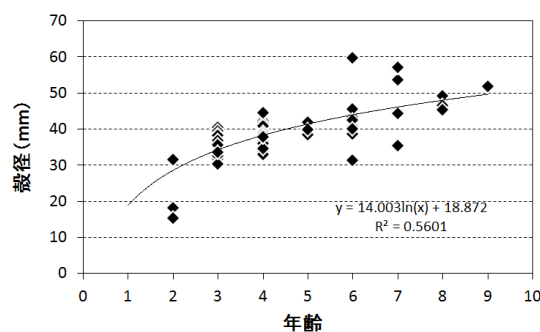


図4 エゾバフンウニの年齢と殻径の関係

（網走水試 佐々木義隆）



※1 現地調査は網走漁業協同組合、網走市、網走東部地区水産技術普及指導所が実施し、網走水試は調査計画の立案、生物測定、データ整理等を共同で実施しています。